

# パプリカにおける収益性の高い 早熟栽培技術の確立

野菜栽培部

## 1 背景、目的

近年、パプリカは彩りがよく、またビタミンCやカロテンを多く含むことから健康野菜としても需要が増加していますが、国内消費量の9割以上が輸入であり、消費者からは生産現場が見える新鮮で安全な国内生産が望まれています。

しかし、パプリカは主にオランダにおいて養液栽培で技術確立された品目であり、低コストな土耕での栽培技術が未確立で、土耕による生産が不安定なため、国内生産は伸び悩んでいます。

そこで、パプリカにおいて、平坦地水田での土耕栽培を前提とした収益性の高い早熟栽培技術を確立しました。

## 2 成果の内容、特徴

- 1) パプリカを1月中旬に播種し、3月下旬～4月上旬に定植する早熟栽培において、適品種と最適な栽植密度および夏季に施設内気温の上昇を抑制できる施設を用いると13～16t/10aの高い収量が得られます。
- 2) 早熟栽培に用いる品種としては、赤色系では、着果数や総収量が多い「スピリット」や不良果の発生が少ない「スペシャル」が優れます。黄色系では、着果数や総収量が多く、不良果の発生も少ない「フィエスタ」が優れます。
- 3) 栽植密度としては、主枝1本仕立て2条植えでは主枝本数8,333本/10aが、主枝V字2本仕立て1条植えでは主枝本数11,111本/10aが収量および品質が優れます。
- 4) 遮光資材を張ったオープンハウス等の利用により夏季の施設内気温の上昇を抑えると、種子数や着果数が増加し、果実品質が向上するとともに商品果収量も2割程度増加します。

### 3 主要なデータなど

表1 収量および品質における品種間差異

果色	品種	総収量 (t/10a)	商品収量 (t/10a)	着果数 (個/株)	1果重 (g)	不良果発生割合(%)			
						凹凸	ひび	す入	尻腐
赤	スピリット	10.7	9.1	27.9	145	20	4	3	5
	スペシャル	9.2	8.0	24.2	134	17	1	4	5
	スーザン	7.8	6.3	21.2	142	21	4	9	8
	パプーレット	7.0	4.1	13.9	160	42	7	8	14
黄	フィエスタ	10.5	9.5	33.2	121	17	3	1	1
	三光	10.4	8.9	26.9	147	30	4	0	5
	和ペル	9.5	7.4	23.8	143	40	15	0	4
	パプーリコ-ルト	9.3	8.6	22.0	154	34	7	0	1

注)1. 定植日：4月3日、収穫期間：6月下旬～11月下旬

2. 栽植様式：V字2本仕立て(主枝5555本/10a)畝幅120cm、株間30cm

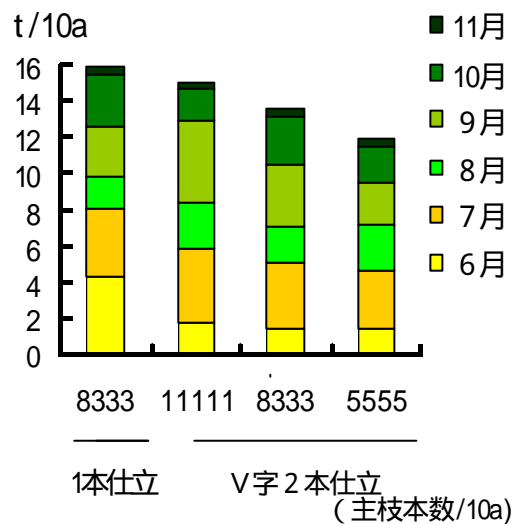


図1 栽植密度および仕立て方法と商品果収量(品種:「フィエスタ」)

表2 早熟栽培における施設の違いと収量および品質

施設の種類	商品果		A			障害果発生割合		
	総収量 (t/10a)	収量 (t/10a)	着果数 (個/株)	品率 (%)	1果重 (g)	変形果 (%)	ひび果 (%)	裂果 (%)
オープンハウス	14.8	13.6	28	72	129	14	10	2
慣行ハウス	12.7	11.2	25	64	128	26	4	1

注) 収穫期間：6月中旬～11月下旬

施設 の種類	総収量 t/10a	商品 果収量 t/10a	A			障害果発生割合		
			着果数 個/株	品率 %	1果重 g	変形果 %	ひび果 %	裂果 %
オープンハウス	14.8	13.6	28	72	129	14	10	2
慣行ハウス	12.7	11.2	25	64	128	26	4	1